

## 地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和元年度の業務実績に関する評価結果（案）

## 第 1 項 全体評価

## 1 評価結果

北九州市立病院機構における令和元年度の業務実績の全体評価は、「中期計画の実現に向けて計画よりやや遅れている」とする。

## 2 評価理由

第 1 期中期目標期間の初年度である令和元年度の業務実績について、第 1 及び第 4 の大項目評価は「評価 B」、第 2、第 3 は「評価 C」となった。

理事長を中心に、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立的な運営を目指した取り組みに着手しているが、財務内容の改善が図れず、令和元年度の経常収支等は悪化している。

このため、令和元年度の業務実績は「中期計画の実現に向けて計画よりやや遅れている」と評価した。

なお、独立行政法人化初年度である令和元年度では、「取組み、成果、課題、評価理由等」において、「調査・研究に着手した」「準備に取り組んだ」と記述する項目が約 40 あった。令和 2 年度以降においては、こうした調査・研究、準備をベースに、質の高い医療の提供や効率的・効果的な業務運営の実現に向け、積極的に取り組みを進めることを期待する。

## 3 大項目別の評価結果一覧

大項目	評価項目数	小項目評価数					平均	大項目評価
		評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1		
第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	12		1	10	1		3.0	B
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	8			7	1		2.9	C
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	4			2	2		2.5	C
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	3		1	2			3.3	B
合計	27	0	2	21	4	0	-	-

## 【大項目評価】

評価 S：評価 A を満たした上で、特筆すべき進捗が認められる（市長が特に認める場合）  
 評価 A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる（小項目評価結果の 2 以下が無く、平均が 3.5 以上）  
 評価 B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる（小項目評価結果の 2 以下の項目評価数が 2 以下で、小項目評価結果の平均が 3 以上）  
 評価 C：中期計画の実現のためにはやや遅れている（小項目評価結果の平均が 3 未満）  
 評価 D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある（市長が特に認める場合）

## 【小項目評価】

評価 5：年度計画を大幅に上回って実施している。  
 評価 4：年度計画を上回って実施している。  
 評価 3：年度計画を順調に実施している。  
 評価 2：年度計画を十分に実施できていない。  
 評価 1：年度計画を大幅に下回っている。

## 第 2 項 項目別評価（評価理由）

## 第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

感染症医療において、医療センターは、市内唯一の第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症対策の中心的な役割を担った。

救急医療において、八幡病院は、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24 時間 365 日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うものの、救急対応する医師の不足により救急応需率が低下するなどの課題を抱えている。

医療の充実において、医療センターでは、地域連携がん診療拠点病院として、高度で専門的な医療を提供するための取組みを進め、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入や更新したリニアックによる IMRT（強度変調放射線治療）の開始などに取り組んだ。また、緩和ケアセンターや薬剤師外来の開設、チーム医療の強化・充実などを実施した。

八幡病院では、小児医療については、新病院において整備した施設・設備を活用した取り組みを進めるとともに、「小児疾患特定疾病児童等レスパイト支援事業」の実施など障害を持つ小児患者や家族に対する医療面での支援の充実を図った。

医療の質の確保のため、両病院とも人材の確保や育成に向けた取り組みを進めるとともに、チーム医療の推進や医療安全対策など、年度計画に基づいた取り組みを進めた。

院内環境の整備では、医療センターでは、31 年 2 月に設置した消化器センターや女性専用病棟の運用を行うとともに、患者支援センターを開設するなどに取り組んだ。

以上のことから、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。

## 第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

独立行政法人化初年度である令和元年度は、マネジメント体制の確立などの自立的な業務運営体制の構築を進めるとともに、経費削減・抑制対策についても取り組みを進めた。

一方で、病床利用率や入院延べ患者数、診療単価等について、営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした法人の目標と乖離が生じている。

また、適切な診療報酬の確保については、施設基準の取得を進めるとともに、経営状況や診療報酬制度等への理解を深めるための取組みや、プロパー職員の採用等による事務処理効力の強化に努めているが、査定減比率の改善には結びついていない。

このため、「中期計画の実現のためにはやや遅れている」と評価する。

## 第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

マネジメント体制の確立や目標管理の徹底、増収対策、費用削減に取り組んでいるものの、営業収支と経常収支は目標値を大きく下回る赤字となった。また、単年度実質収支と年度末資金剰余についても、移行前地方債償還債務の返済時期のずれを加味すれば目標値を大幅に下回っている。

このため、「中期計画の実現のためにはやや遅れている」と評価する。

## 第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

看護専門学校において優秀な人材を育成する地域の看護師養成機関として臨床看護及び教育の質の向上に努めていること、医療センターの老朽化対策を進めていること、市政へ積極的に協力していることから、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。

地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和元年度の業務実績に関する評価結果（案）

（セ）：医療センター、（ハ）：八幡病院

項目	令和元年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
<b>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</b>				
<b>1 政策医療の着実な実施</b>				
(1) 感染症医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても新型コロナウイルスの外来患者及び入院患者の受入れ対応を実施。</li> <li>●看護体制の見直しに着手（セ）</li> <li>●感染対策研修会の実施、認定看護師の養成研修へ職員派遣（セ）</li> </ul>	5	4	医療センターは、二類感染症に対応できる職員の育成など年度計画を順調に実施するとともに、新型コロナウイルス感染症について、第2種感染症指定医療機関として、外来及び入院患者の受入れについて、中心的な役割を果たした。一方で、感染症医療等に対して運営費負担金を受けており、新型コロナウイルス感染症対策の協力医療機関等から市立病院機構へ更なる対応が求められていることなどから、評価「4」とした。
(2) 周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合周産期母子医療センターの運営（セ）</li> <li>●運用の見直し（セ）</li> </ul>	3	3	総合周産期母子医療センターを24時間体制で運営し、高度で専門的な医療を提供しているため、評価「3」とした。
(3) 小児救急を含む救急医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●救命救急センター、小児救急センターの運営（ハ）</li> <li>●医師確保に向けた取り組み（ハ）</li> <li>●救急救命士の採用（令和2年度から）（ハ）</li> <li>●循環器内科医師不足による救急受け入れ制限（ハ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車応需率 94.0%、受入件数 3,604件</li> <li>・救急手術件数 342件</li> <li>・小児救急ウォークイン件数 30,402人</li> </ul> </li> </ul>	3	2	八幡病院では、救急車応需率が低下〔令和元年度94.0%（平成29年度比▲2.3%）〕した。新病院に移転し、施設・設備は整備されたが、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うためには、循環器内科医を含む医師の確保が急務である。年度計画を十分に実施できていないと判断し、評価「2」とした。院内体制の充実・強化に向けた取り組みの進捗を期待する。
(4) 災害時における医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●DMOC訓練の実施（ハ）</li> <li>●被災患者の搬入搬出体制等のマニュアルの整備（ハ）</li> <li>●災害医療研修センターにおける人材育成についての調査・研究（ハ）</li> <li>●薬品供給に関する八幡薬剤師会との協定締結（ハ）</li> <li>●BCPに基づいた対策・訓練の実施</li> </ul>	3	3	災害時における医療提供について、災害時の迅速かつ十分な薬品提供に向けて八幡病院と八幡薬剤師会が協定を締結するなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。
<b>2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実</b>				
(1) 医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>●がんゲノム医療提供体制の整備</li> <li>●手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入、リニアック更新</li> <li>●緩和ケアセンター（4月）や薬剤師外来（4月）の開設</li> <li>●がん相談支援センターやがん看護外来の充実</li> <li>●連携ネット北九州の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者数 4,869人</li> <li>・化学療法件数 15,538件</li> <li>・放射線治療件数 11,781件</li> <li>・連携ネット北九州新規登録患者数 1,186件</li> </ul> </li> </ul>	3	3	地域がん診療連携拠点病院として、更新したりニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の開始や、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入など高度で専門的な医療の提供するための取り組みや、緩和ケアセンターや薬剤師外来の開設、チーム医療の充実など、がん患者や家族の支援機能を充実させる取り組みを進め、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。連携ネット北九州については、新規登録患者数が既に令和5年度の目標値を達成しており、評価できる。
(2) 八幡病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小児救急・小児総合医療センターの運営</li> <li>●小児集中治療室・無菌室等を活用した医療提供</li> <li>●小児慢性特定疾患レスパイト支援事業等レスパイト入院の実施</li> <li>●消化器・肝臓病センターや心不全センターの運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科患者数（外来） 51,412人</li> <li>・小児科患者数（入院） 37,255人</li> </ul> </li> </ul>	3	3	小児医療については、新病院において整備した施設・設備を活用した診療機能の充実や、「小児疾患特定疾病児童等レスパイト支援事業」の実施など障害を持つ小児患者や家族に対する医療面での支援の充実を図る取り組みを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。なお、心不全センターの機能が果たせる体制構築や、ハイブリッド手術室を活用した医療の提供への取り組みが必要である。
<b>3 医療の質の確保</b>				
(1) 人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体での職員採用計画の作成</li> <li>●リクルート活動の強化</li> <li>●医師事務作業補助、病棟クラーク等の増員</li> <li>●診療情報管理士、医療事務職員の採用、事務職員のプロパー化</li> <li>●資格取得支援制度、教育研修制度の構築に着手</li> <li>●女性医師の就業環境整備、柔軟な勤務体系、事務職員の教育制度や育成・異動方針について調査・研究に着手 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実習受け入れ数 医療センター282人、八幡病院261人</li> <li>・専門医資格取得数 医療センター105件、八幡病院121件</li> <li>・指導医資格取得件数 医療センター140件、八幡病院42件</li> <li>・初期臨床研修医 医療センター10人、八幡病院 4人</li> <li>・専攻医 医療センター22人、八幡病院 9人</li> <li>・専門看護師 0人</li> <li>・認定看護師 医療センター21人、八幡病院17人</li> <li>・診療情報管理士数 医療センター11人、八幡病院2人</li> </ul> </li> </ul>	3	3	医療スタッフの確保や職場環境の整備などを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。令和元年度において調査・研究に着手した項目については、令和2年度以降において、制度や仕組みの構築に期待したい。

項目	令和元年度の主な取組、成果等	機構評価	市評価	市評価コメント
(2) 医療の質の確保、向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「チーム医療」の推進</li> <li>●クリニカルパスの活用の推進</li> <li>●手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入等、医療の高度化に対応するための取組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療チーム編成状況 ※は医療センターのみ</li> <li>・緩和ケア（※）、認知症ケア、感染防止対策、栄養サポート、医療安全管理、呼吸ケアサポート、褥瘡（じょくそう）管理</li> <li>・クリニカルパス件数 医療センター229件、八幡病院218件</li> <li>・クリニカルパス適用率 医療センター26.6%、八幡病院20.5%</li> </ul> </li> </ul>	3	3	「チーム医療」の推進や 高度な医療機器の整備、更新を進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
(3) 医療安全の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>●院内ラウンドや医療安全研修会の実施</li> <li>●インシデント・アクシデントレポートの分析による医療事故等の予防策の検討などへの取組み</li> <li>●機構全体の危機管理体制の調査・研究に着手 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等実施回数 医療センター56回、八幡病院59回</li> <li>・インシデント・アクシデントレポート提出回数 医療センター1,424回、八幡病院1,252回</li> </ul> </li> </ul>	3	3	医療安全に関連して、年度計画を順調に実施していることから評価「3」とした。
(4) 医療に関する調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>●臨床研究等の受託拡充のための準備</li> <li>●治験・臨床研究に関する施設や設備の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・治験等実施件数 医療センター109件、八幡病院31件</li> </ul> </li> </ul>	3	3	医療に関する調査・研究に積極的に取り組むため体制強化を進めるなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保				
(1) 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●接遇研修の見直しに向けた調査・研究に着手</li> <li>●セル看護方式やPNSの導入に向けたマニュアル作成やモデル病棟での試行実施</li> <li>●受付・診察の待ち時間の短縮に向けたレイアウト変更や設備等の整備</li> <li>●消化器センター（H30.2）、女性専用病棟（H30.2）や患者支援センター（R1.10）の開設（医療センター）</li> <li>●機構全体のホームページを再構築</li> <li>●患者や市民への情報提供の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇研修回数 医療センター17回、八幡病院10回</li> <li>・研修参加延人数 医療センター115人、八幡病院122人</li> <li>・患者満足度調査結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>医療センター 4.2点（入院）、3.5点（外来）</li> <li>八幡病院 4.4点（入院）、4.1点（外来）</li> </ul> </li> <li>・広報誌等発行回数 医療センター5回、八幡病院8回</li> <li>・市民向け講座等開催回数 医療センター20回、八幡病院35回</li> </ul> </li> </ul>	3	3	患者ニーズの把握や院内環境の整備、診療内容や治療実績等の情報発信などへ取り組み、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
(2) 地域医療機関等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域医療機関へのアンケートやヒアリングの実施</li> <li>●スタッフ増員等の医療連携室の体制強化</li> <li>●地域・近隣医療機関への訪問、広報活動の実施</li> <li>●地域の医療機関・医療従事者との研修会やカンファレンスの実施</li> <li>●医療センターと八幡病院の間で、テレビ会議システムを導入して遠隔で相互のカンファレンスや会議を開催できる体制の整備、各病院の専門分野における相互の患者紹介の推進、医師や診療放射線技師の人事交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率 医療センター85.2%、八幡病院63.6%</li> <li>・逆紹介率 医療センター81.3%、八幡病院82.3%</li> <li>・共同利用件数 <ul style="list-style-type: none"> <li>高額医療機器 医療センター1,274件、八幡病院710件</li> <li>開放病床 医療センター35件、八幡病院71件</li> </ul> </li> <li>・地域医療従事者研修実施回数 <ul style="list-style-type: none"> <li>医療センター9回、八幡病院17回</li> </ul> </li> <li>・登録医療機関件数 医療センター588件、八幡病院220件</li> <li>・地域医療連携会議参加人数 医療センター545人、八幡病院393人</li> </ul> </li> </ul>	3	3	地域の医療機関等との連携推進に向け、医療連携室の体制強化を進めるなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。紹介率については、医療センター（平成29年度：86.6%→令和元年度：85.2%）、八幡病院（平成29年度：67.1%→令和元年度：63.6%）とともに減少していることから、目標に向けて紹介率を高めていく必要がある。

項目	令和元年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント																		
<b>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</b>																						
<b>1 収入増加・確保対策</b>																						
(1) 病床利用率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●具体的な数値目標を設定してベッドコントロールの効率化を推進</li> <li>●診療科ごとに数値目標を設定して進捗管理していく体制の整備</li> <li>●救急患者の積極的な受入れ</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>医療センター</th> <th>八幡病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・病床利用率（全体）</td> <td>80.6%</td> <td>80.8%</td> </tr> <tr> <td>・病床利用率（感染症・周産期除く）</td> <td>85.9%</td> <td>---</td> </tr> <tr> <td>・外来患者数</td> <td>263,982人</td> <td>130,381人</td> </tr> <tr> <td>・入院患者数</td> <td>154,033人</td> <td>92,315人</td> </tr> <tr> <td>・手術件数</td> <td>3,934件</td> <td>1,899件</td> </tr> </tbody> </table>		医療センター	八幡病院	・病床利用率（全体）	80.6%	80.8%	・病床利用率（感染症・周産期除く）	85.9%	---	・外来患者数	263,982人	130,381人	・入院患者数	154,033人	92,315人	・手術件数	3,934件	1,899件	2	2	年度計画等に掲げられている項目について取り組みを進めているものの、病床利用率や入院延べ患者数、診療単価等について、予算と乖離が生じていることから、年度計画を十分に実施できていないと判断し、評価「2」とした。
	医療センター	八幡病院																				
・病床利用率（全体）	80.6%	80.8%																				
・病床利用率（感染症・周産期除く）	85.9%	---																				
・外来患者数	263,982人	130,381人																				
・入院患者数	154,033人	92,315人																				
・手術件数	3,934件	1,899件																				
(2) 適切な診療報酬の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門的知識や経験を有する人材の採用</li> <li>●診療報酬請求に精通した職員の確保・育成</li> <li>●診療報酬に関する勉強会の実施</li> <li>●新たな施設基準の取得</li> <li>・市派遣職員比率 医療センター65.5%、八幡病院87.5%</li> <li>・査定減比率 医療センター0.75%、八幡病院0.46%</li> <li>・医療費徴収率 医療センター99.7%、八幡病院99.7%</li> </ul>	3	3	医療事務プロパー職員の採用など診療報酬の確保に向けた取り組みを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。なお、基本計画策定時と比べて、医療センターにおいて査定減比率が高まっている（平成29年度：0.69%→令和元年度：0.75%）ことから、査定減率の向上に努める必要がある。査定減率の向上は即効性のある収益確保策であり、プロパー職員や事務職員の育成、医療スタッフの診療報酬制度への理解を深める取り組みを着実に進める必要がある。																		
<b>2 経費節減・抑制対策</b>																						
(1) コスト節減の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調達部門に専任職員の配置</li> <li>●高額医療機器の調達と複数年保守の一体契約を行うなど柔軟な契約制度の導入</li> <li>●後発医薬品の採用率向上への取組み</li> <li>●両病院の委託契約の一本化</li> <li>・後発医薬品採用率 医療センター91.7%、八幡病院86.9%</li> </ul>	3	3	調達部門への専任職員の配置、契約制度や業務委託の見直しなどへの取り組みを進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。なお、後発医薬品採用率については、医療センターにおいて、令和5年度の目標値を達成しており評価できる。																		
(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高額医療機器等の稼働状況の把握・情報共有</li> <li>●臨床工学技師の増員</li> <li>●医療機器管理部門の設置や、稼働状況可視化システムの導入についての検討開始</li> <li>●両病院での医療機器の規格統一化を検討する仕組みを構築</li> </ul>	3	3	医療機器等の稼働状況の把握などに着手しており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。なお、医療機器等の稼働率をさらに高める取り組みが必要である。																		
<b>3 自立的な業務運営体制の構築</b>																						
(1) マネジメント体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常勤役員によるミーティングを頻回に開催し、課題等を共有、かつ迅速に対処できる体制を構築</li> <li>●機構幹部職員で構成する経営本部会議を設置し、機構全体のマネジメント体制を構築</li> <li>●病院経営に精通した民間人材を登用して病院事務局の組織体制を強化</li> <li>●機構全体の基本理念・シンボルマークを策定</li> <li>●診療科・課単位での部門別目標を設定した上で個別ヒアリングの実施</li> </ul>	3	3	法人設立初年度であり、マネジメント体制の構築は重要な事項である。理事長ミーティング、経営本部会議等の設置、組織目標、部門別目標の設定、本部・事務局組織の体制強化などに取り組み、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。新たに構築した、主体的かつ機動的な意思決定システムにより、業務運営改善及び効率化が求められる。																		
(2) 職員の経営意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員向けの経営状況説明会の開催</li> <li>●職員向け広報誌の定期的な発行やグループウェアを活用した情報発信</li> </ul>	3	3	職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催等に取り組むなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。なお、令和元年度の決算状況を念頭に置いて、経営状況等の共有などについて周知し、経営感覚を高めていく必要がある。																		
(3) 法令・行動規範の遵守等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●組織のガバナンス強化に向けた内部統制の整備に着手</li> <li>●ハラスメント対策専門官の配置、内部規定の整備等によるハラスメント防止対策の強化</li> </ul>	3	3	内部規定の整備をはじめ、ハラスメント対策専門官の配置などに取り組む、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。																		
4 職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「働き方改革研究会」を設置し、今後の働き方改革に向けた具体策の取りまとめ</li> <li>●医療スタッフの負担軽減やタスクシフティングの推進</li> <li>●人事給与制度に新たな仕組みの導入や、勤務時間の見直しや服務取扱基準の変更</li> <li>●さらなる人事給与制度や評価制度の見直しに向けた調査・研究の着手</li> <li>●院内保育所の機能強化</li> <li>・看護師離職率 医療センター5.4%、八幡病院7.2%</li> </ul>	3	3	働き方改革を推進するため、機構内に「働き方改革推進本部」の設置や、人事給与制度や人事評価制度についての検討等を進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。看護師の離職率については、平成29年度と比べて改善しており、引き続き職場環境の充実に努められたい。「働き方改革研究会」において取りまとめられた「最終提言」を踏まえた取り組みの進捗・実現に期待する。																		

項目	令和元年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
<b>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</b>				
<b>1 財務基盤の安定化</b>				
ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●月次決算による毎月の目標達成状況等の情報共有</li> <li>●部門別の目標達成状況の分析、経営課題、経営情報の共有</li> <li>●目標達成に対するインセンティブ制度の導入</li> <li>●寄付金受入れ制度の創設</li> </ul>	3	3	効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営状況の把握や目標管理による手法の導入などを進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえた適切な対応を行うとともに、財政基盤の安定化に向け、経営課題を明確にし、中期計画や年度計画の取組みを着実に進めることが必要である。
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マネジメント体制の確立、目標管理の徹底、収入増加・経費節減対策の実施</li> <li>●収益面において、医療センターは上半期の低迷、八幡病院は内科系医師の大量退職等、新型コロナウイルス対策等によって稼働目標を大きく下回る。費用面では、高額医薬品の使用増加、人件費高騰による委託料の増加等により費用が予算目標を上回る。</li> <li>●令和元年度決算は、中期目標に掲げた「営業収支及び経常収支の黒字化」が実現できなかった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業収支 ▲17.1億円（予算比▲15.0億円）</li> <li>・経常収支 ▲15.9億円（予算比▲14.6億円）</li> <li>・営業収支比率 法人全体93.7%、医療センター97.0%、八幡病院92.6%</li> <li>・経常収支比率 法人全体94.2%、医療センター97.4%、八幡病院92.9%</li> </ul> </li> </ul>	2	2	営業収支及び経常収支の黒字化に向けて取り組みを進めたが、目標を大きく下回る結果となっており、評価「2」とした。
ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単年度実質収支（単年度資金収支）は、5.3億円（予算比+7.1億円）、年度末資金剰余は、27.3億円（予算比+7.1億円）。移行前地方債償還債務（22.1億円）の返済期日の変更分を織り込むと、単年度実質収支、年度末資金剰余ともに大幅に減少。</li> </ul>	2	2	単年度実質収支や年度末資金剰余は、移行前地方債償還債務（22億円）の返済が令和2年度にずれ込んだことにより予算比でプラスとなっているが、実質的には、単年度実質収支（単年度資金収支）は、▲16.8億円（予算比▲15.0億円）、年度末資金剰余は、+5.2億円（予算比▲15.0億円）であり、大幅に悪化していることから、評価「2」とした。
2 運営費負担金のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市からの運営費交付金が国の基準に基づいて適切に交付されるよう、市と協議</li> <li>・令和元年度の運営費負担金の実績 総額 34.4億円（予算比）±0億円 （内訳） <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症医療 1.3億円</li> <li>・周産期医療 5.2億円</li> <li>・小児救急を含む救急医療 15.7億円</li> <li>・看護師養成費 0.6億円</li> <li>・院内保育所運営費 0.4億円</li> <li>・企業債元利償還金 11.2億円</li> </ul> </li> </ul>	3	3	運営費負担金を適切に執行していることから、評価「3」とした。
<b>第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置</b>				
1 看護専門学校の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●臨床看護及び教育の質の向上に向けて、優秀な教員人材の確保、教員の外部研修への参加などを実施</li> <li>●オープンキャンパスや学校訪問の実施など学校施設等の開放を実施</li> <li>●卒業生の市内就職率の向上に向けた卒業生のフォローアップを実施</li> <li>●奨学金制度や授業料等の学生負担に関する調査・研究に着手</li> <li>・卒業生の市内就職率 83.3%</li> </ul>	3	3	臨床看護及び教育の質の向上に向け、看護教育人材の確保や教育環境の整備などへ取り組んでおり、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
2 施設・設備の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療センターの施設や設備等の老朽化対策について、機構内部での調査・研究に着手</li> <li>●政策医療については、機構内部での調査・研究に着手</li> </ul>	3	3	老朽化状況等の調査に着手していることなどから、評価「3」とした。
3 市政への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市幹部と機構幹部の意見交換や、担当部局との定期的な情報交換を実施</li> <li>●新型コロナウイルス対策において、市の要請に応じて、外来診療や入院受入れなどを積極的に実施</li> </ul>	5	4	市との連携体制の構築を進めるとともに、新型コロナウイルス対策について、市からの要請に基づき、積極的な対応を行った。一方で、感染症医療や救急医療等に対して運営費負担金を受けており、新型コロナウイルス感染症対策の協力医療機関等から市立病院機構へ更なる対応が求められていることなどから、評価「4」とした。